

## ティーチング・ステートメント

所属 工学部建築学科  
名前 魚住 昌広  
作成日 2024年2月26日

### 【責任】

工学部建築学科において、「建築環境工学」「建築設備工学」分野の基礎から計画・設計論、実験演習などの講義（「水・空気の科学」、「音・光の知覚」「熱・空気環境」、「建築設備計画」、「環境計測実験」等）およびゼミ生（4年生）の卒業研究指導を行っている。

### 【理念】

建築とは、建物をつくる人間の行為、つくり出された建物のことであり、「美（芸術性・美しさ）」「強（安全性・耐久性）」に加えて、「用（機能性・快適性・環境性）」の要素が無くては成立しない。

建築環境工学の分野は、建築の「用」の要素について、温暖化に代表される地球規模の環境問題から、日常的に生活する空間の快適性、建物の省エネルギーシステムの構築や再生可能エネルギー利用など、幅広いテーマを扱う学問領域である。

大学での教育では、学生が学ぶことの意義を主体的に捉え、専門・実務的な知識や技術のみならず、その根本にある歴史、文化、風土を学び、建築を構想し、表現する力を身につけることを目指す。

### 【方針・方法】

理念の実現のためには、講義や演習の内容を理解し、専門知識を身につけることが基本となる。建築の成り立ちを把握するためには、他者と協同で物事を進め、解決していく能力を育み、設計だけではなく実際の施工や運用も理解する必要がある。また、学生時代に、社会人としてのルールを身につけておくことも重要である。上記の達成に向けて、以下の方針（□の項目）と方法で教育を進めていく。

また、学生の達成度の把握やオンライン講義における教育の質の検証については、以下の項目（◆の項目）で行う。

#### □講義内容を確実に理解する

- ・現場見学や実験、映像教材などを通して、専門分野の知識が実際にどのように活用・展開されているかを実感できるようにする。
- ・講義の始めに前回講義の復習を行う
- ・講義スライドを、資料として講義終了後に公開する
- ・言い換えや、例え話などを使って、理論の理解を補助する。

#### □「建築」の成り立ちを把握する

- ・実施設、設備、機器、施工現場などを工程ごとに視察・見学
- ・学生主体で、建築基本・実施計画の策定、現場実測調査、データの解析まで一連の施設システム評価を実施

#### □学生（社会人）としての、ルールを身につける

- ・他学生との、共同作業（共同設計、グループ実験、プレゼン発表など）を実施
- ・講義開始時間は厳守し、授業終了時間は、延長しない
- ・期限内のレポート、設計課題等の提出を徹底する

#### ◆講義・研究の理解度・進捗等の把握

- ・定期（中間）試験、課題レポート、実験レポート、設計課題による評価
- ・各期中間時点でのアンケート調査、終講目の授業改善アンケート結果の参照
- ・過年度の成績や達成度と比較による、時代や学生の変化への対応の要否を検討

◆講義における教育の質の維持

- ・専門分野に関連のある国内外の最新のトピック、事件などを講義内で取り上げて解説

**【成果・評価】**

- ・担当科目の授業評価アンケート結果
- ・専門選択科目履修者の増加
- ・建築士、施工管理技士合格者数（卒業生）、受験対策講座受講者数（在校生）
- ・建築学会卒業研究（他大学との）合同発表会での発表、参加

**【目標】**

- ・広く「環境」問題を理解し、「建築（環境）」を通して地域はもとより国内外の課題解決に取り組んでいける技術者となるための基礎的な知識やスキルを修得する（長期）
- ・専門分野科目（カリキュラム）の改良、充実（短期）
- ・他大学学生や企業と本学学生との共同研究の企画、実施（短期）